

山梨県東八代郡豊富村

遺跡詳細分布調査報告書

1997

豊富村教育委員会

『遺跡詳細分布調査報告書』

ページ	行	説	正
8	挿図	第3図 (無)	第3図 須恵器
8	挿図	第4図 須恵器・土製品・錢貨	第4図 土製品・錢貨

山梨県東八代郡豊富村

遺跡詳細分布調査報告書

1997

豊富村教育委員会

序

豊富村は、甲府盆地の南部に位置し、村の北側を笛吹川が流れ、その支流である浅利川の周辺に集落が形成された村です。

本村は、自然豊かな曾根丘陵を中心に合掌式石室をもつ王塚古墳をはじめ、古代の遺跡が多く眠り、中世になると、甲斐源氏の祖、新羅三郎義光の家系で逸見黒源太清光公の第十子浅利与一義成公がこの地を領し、居館を構えた所と伝えられ、それを物語るように大福寺境内で代々守られてきた高さ3mの与一公脣塔をはじめ、与一公の所業を今に伝える史跡や伝説が数多く残っています。また江戸時代の記録として、当時の古文書が多数現存しており、現在豊富村では、『豊富村誌』編纂事業が進行しており、当時の社会生活などが明らかになってくることでしょう。

このように豊富村は、自然だけでなく、歴史的環境に恵まれた地域であり、このような祖先が残してくれた文化財を保護・活用していくことは、現代に生きる私たち子孫に課せられた重要な責務といえるでしょう。

そこで今回は埋蔵文化財について、21名の調査員を委嘱し、その方々にご協力をいただきながら、村内全域にわたって分布調査したところ、73遺跡が確認されるという成果を得ることができました。

今後、この調査結果が文化財保護と地域開発の両者に有効的に活用される資料となり、「バストラルシティ・豊富」のキャッチフレーズにふさわしい地域づくりができるることを希望します。

最後に、この調査にご協力をいただいた村民の皆様並びに関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成9年3月31日

豊富村教育委員会

教育長 萩原保正

例　　言

1. 本書は、山梨県東八代郡豊富村の遺跡・埋蔵文化財の詳細分布調査報告書である。
2. 分布調査は、平成8年度文化財補助事業として、豊富村教育委員会が文化庁及び山梨県より補助金を受けて、実施した。
3. 本調査における遺物、記録は豊富村教育委員会が保管している。
4. 本報告の執筆・編集・表採遺物の写真撮影は岡野秀典（豊富村教育委員会）が、遺跡の写真撮影は各調査員が行った。
5. 調査から報告書の作成に至るまで次の諸機関からご指導、ご協力を賜った。記して感謝する次第である。（順不同・敬称略）

豊富村村民の方々・山梨県教育委員会学術文化課・山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター・帝京大学山梨文化財研究所・豊富村文化財審議会・豊富村村誌編纂室

目　　次

序

例　　言

目　　次

第1章　調査に至る経緯	1
第2章　地理的歴史的環境	1～2
第3章　調査の方法	2
第4章　遺跡地名表	3～5
第5章　表採遺物	5～8
第6章　まとめ	9
参考文献	9～10
遺跡分布図	11～12
写真図版	

第1章 調査に至る経緯

豊富村は、経済活動の進展に伴い、近年、宅地造成、道路建設、工場建設などの土木工事が急増しており、今後も大規模な宅地造成、道路建設などが計画されており、それらの行為に対して適切な文化財保護を講ずる必要が迫られている。

現在、豊富村内に所在する遺跡の分布を知る基本資料として、昭和52年に行われた分布調査の結果を活用している。しかし、この調査時の分布域外にも遺物の散布が認められるようになって、過去の分布調査の結果だけでは不十分であることが明らかとなってきており、村内の開発と埋蔵文化財の保護に支障をきたし始めている。

そこで豊富村教育委員会では、以上の状況を踏まえ、過去の分布調査の結果を生かしながら、村内全域を対象とした埋蔵文化財に関する基本資料を作成するため、文化庁・山梨県の補助を受けて、村内遺跡詳細分布調査を実施することとなった。

第2章 地理的歴史的環境

豊富村は、山梨県のはば中央、甲府盆地の南端に位置し、北は笛吹川をはさんで中巨摩郡下郷町、東は中道町、南と西は西八代郡三珠町と接している。村域は、東西5km、南北6km、総面積は1,350haである。地形的に見ると、御坂山塊の北斜面の山地と曾根丘陵台地、浅利川流域の平坦地、及び笛吹川流域の沖積地とに分かれ。村の北端に笛吹川が西流し、南岸から浅利川、滝戸川の支流が注ぎ、村中で谷坂川、大森川、大門川、仲川、南川などが浅利川、七覚川が滝戸川に合流する。気候は、甲府盆地と大差なく、内陸的気候で盆地特有の寒暖の差が大きい。

村の南西は、標高650～950mに及ぶ急峻な御坂山塊の北面斜面の山地に占められ、これらの山地から平地に移る尾根の末端部に標高240～380mで強粘土質からなるローム層で被われた曾根丘陵が広がっている。曾根丘陵は、山梨県の中央部に広がる甲府盆地の南縁、富士北麓と甲府盆地を分断する御坂山塊の北方に広がり、長さ約13km、幅2～3km、盆地との比高50～150mの丘陵である。村内の遺跡分布は、そのほとんどが丘陵台上地で占める。御坂山塊の関原峠のやや北に下ったあたりに源流を発して、北西に向かって流れ笛吹川に注ぐ浅利川があるが、その浅利川流域に沿って集落が発達している。村の北部は、笛吹川の沖積地、かつての氾濫原である。現在は、明治以来の区画整理以降、水田を主としている。

豊富村は、近隣の町村と同じく曾根丘陵を中心とした遺跡分布を呈している。これまで行ってきた横畠遺跡、赤二郎遺跡、高部字山平遺跡などの発掘調査により、先土器時代から中世にかけての遺跡が確認されている。集落址以外にも、かつては、古墳がいくつも存在していたが、戦後以来の開墾により、その多くは、マウンドを失った。昭和初期の調査では、本村の古墳分布は、4群に分けられるという。すなわち、干塚古墳を中心とする字山平古墳群、三星院古墳を中心とする三星院古墳群、城原古墳群、三珠町側に赤鳥元年銘鏡が出土したことで知ら

れる孤塚古墳が現存する田見堂及び鳥居原古墳群である。

奈良・平安時代の豊富村一帯は、『和名抄』にみられる八代郡沼尾（ぬまのお）郷に属すると思われる。

古代末期には、甲斐国内は、在地勢力の衰退後、甲斐源氏という新興勢力が勃興し、沼尾郷の大部分が重なるとされる浅利郷に浅利守一義成が入る。建久2年（1191）の長講堂領目録（後白河天皇の娘宜陽門院の領地目録）に青島莊が含まれ、浅利郷は、その青島莊の中に位置するものと考えられる。村内の大福寺には、塔形式の浅利義成の墓がある。鎌倉・室町時代の豊富村を知る文献はほとんど無く、浅利氏一族も秋田県の比内地方に本拠を移したようである。比内浅利氏と見られる沙弥淨光という者が惣領にあてた所領の譲り渡し状で「沙弥淨光譲状」（1354）という史料がある。その中に、「甲斐国青島庄浅利郷」が記されている。時代が下って、戦国時代の武田家家臣三枝土佐守虎吉の館跡と称する小丘が三里院の南側の畠地に残る。

江戸時代の本村は、上大鳥居村、浅利村、高部村、木原村、関原村の5か村に分かれていたが、当時の各村の状況は、詳細不明であり、現在進行中の農富村誌編纂作業の中で明らかになるであろう。

近代に入り、明治4年（1871）、甲斐国は山梨県と改称され、明治7年（1874）には、上記の5か村と右左口村が合併して農富村が誕生した。明治22年（1889）の市町村制施行に際し、右左口村（現在中道町）が分離して、現在に至っている。

第3章 調査の方法

分布調査は、農富村教育委員会より委嘱を受けた調査員21名と村の文化財担当者が中心となり、田畠を中心に踏査しながら土器・石器などの遺物を表面採集していく。期間は、平成8年12月7日から平成9年2月16日にかけて実施された。各調査員は、担当地域を踏査し、遺物の採集や範囲の確認、位置図の作成、遺跡カードの作成、遺跡の写真撮影を行った。現地踏査終了後は、2月下旬から3月下旬にかけて遺物整理、記録作業が行われた。

分布調査・室内整理参加者

櫛原功一、望月和幸、林部光、佐々木満、和田豊、竹川洋、高須秀樹、飯島泉、大島正之、志村憲一、広瀬和弘、内藤実、小宮山隆、平塚洋一、野崎進、田中大輔、宮澤公雄、伊藤修二、三澤達也、小島利史、畠大介、相原ツネ子、右原喜代の、長田長美、桜井里子、塙田よ志江、中沢浦子、村松俊江

第4章 遺跡地名表

No.	遺跡名	種別	所在地	時期	備考
1	明治遺跡	包蔵地	高部465他	近世	
2	蕨田遺跡	包蔵地	高部793他	近世	
3	高部宇山遺跡	集落跡	高部1418他	縄文(前～後)・弥生・古墳・中世・近世	県20009
4	宇山遺跡	散布地	高部1702他	縄文(中)・中世・近世	
5	中尾遺跡	散布地	木原1385他	縄文(中)・弥生・古墳・平安	県20008
6	代中遺跡	散布地	木原1180他	縄文(中)・古墳	県20007
7	代中東遺跡	散布地	木原1258他	縄文(前～中)・平安・近世	
8	関沢遺跡	散布地	木原1504	縄文(中)	
9	三枝氏館跡	城館跡	木原1862他	中世	県20005
10	上野原遺跡	散布地	木原1708-14他	縄文(前～中)・弥生・古墳・近世	県20006
11	駒平遺跡	集落跡	木原83-1他	縄文(中)・古墳・近世	県20001
12	高内遺跡	散布地	木原1922他	縄文(前～中)・中世	県20004
13	上三口西遺跡	散布地	木原2000他	縄文(前～中)・平安・中世	県20002
14	上三口遺跡	集落跡	木原2010他	縄文(中)・弥生・古墳・中世	県20003
15	弥二郎遺跡	集落跡	木原160他	先土器・縄文(前～中)・弥生・古墳・中世	県20022-20023
16	東原遺跡	散布地	木原2475他	縄文(前～中)・古墳・平安・中世	県20025
17	原遺跡	散布地	閑原996他	縄文(前～中)・古墳	県20024
18	中原遺跡	散布地	閑原1151他	縄文(前～中)・平安	県20026
19	浜井場遺跡	散布地	閑原1467-1他	縄文(中)・弥生・中世	県20028
20	付山南遺跡	散布地	閑原1999他	縄文(中)・古墳	県20029
21	付山北遺跡	散布地	閑原2066他	縄文(中)・古墳・中世	県20030
22	神山南遺跡	散布地	閑原2196他	縄文(中)	
23	神山北遺跡	散布地	閑原2128他	縄文(中)	
24	旧三星院跡	寺社跡	閑原2517他	中世	
25	網原遺跡	散布地	閑原648他	平安	
26	柿戸原遺跡	散布地	閑原1370他	中世	県20027
27	柿戸原南遺跡	散布地	閑原1324他	縄文(中)	
28	山口遺跡	散布地	閑原294他	縄文(中)	
29	宮の下遺跡	集落跡	浅利2626他	縄文(中)・弥生・古墳・平安	県20010
30	熊野原遺跡	散布地	浅利2692他	縄文(中)・弥生・古墳・平安	県20011

No.	遺跡名	種別	所在地	時代	備考
31	浅利氏館跡	城郭跡	浅利2285他	平安・中世	県20012
32	大鳥居宇山平遺跡	散布地	大鳥居4141他	繩文(前～中)・弥生・古墳・平安・近世	県20013
33	釜池西遺跡	散布地	大鳥居4353他	繩文(前～中)・近世	
34	釜池東遺跡	散布地	大鳥居4051他	繩文(前)・中世・近世	
35	浜井戸遺跡	散布地	大鳥居3834他	近世	
36	城原遺跡	散布地	大鳥居2884-1他	繩文(前～後)・弥生・古墳	県20014
37	見間北遺跡	散布地	大鳥居2391-1他	古墳	
38	見間遺跡	散布地	大鳥居2306他	繩文(中)・弥生・古墳・中世	県20015
39	門田遺跡	散布地	大鳥居2203他	古墳・中世	県20016
40	門田南遺跡	散布地	大鳥居2068-1他	繩文(前～中)・古墳・平安	
41	南大森遺跡	散布地	大鳥居5347-1	近世	
42	西の沢遺跡	散布地	大鳥居5539-31他	繩文(中)	県20017
43	宮の脇遺跡	散布地	大鳥居229他	近世	
44	久保遺跡	散布地	大鳥居3176他	繩文(中)・古墳・平安・中世	県20018
45	川東遺跡	散布地	大鳥居3330	繩文(中)・弥生・古墳・平安・中世	県20019
46	横畠遺跡	集落跡	大鳥居字横畠3438-1他	旧石器・繩文・弥生・古墳・平安・中世・近世	県20021
47	久保田遺跡	散布地	大鳥居1238他	古墳・中世	
48	前田遺跡	散布地	大鳥居743他	繩文(前～中)・弥生・古墳・平安・中世	県20020 前田久保川遺跡
49	伊勢家古墳	古墳	高部1538	古墳	県20047 円墳
50	無名古墳	古墳	木原1408	古墳	県20040 墳丘消滅
51	無名古墳	古墳	木原1436	古墳	県20041 墳丘消滅
52	無名古墳	古墳	木原1441-1	古墳	県20042 墳丘消滅
53	三星院古墳	古墳	木原1710-1	古墳	県20031 前方後円墳
54	無名古墳	古墳	木原1708-11	古墳	県20032 墳丘消滅
55	無名古墳	古墳	木原1708-19	古墳	県20033 墳丘僅かに残存
56	無名古墳	古墳	木原1708-14	古墳	県20034 墳丘消滅
57	無名古墳	古墳	木原1708-23	古墳	県20035 墳丘僅かに残存
58	無名古墳	古墳	木原1708-8	古墳	県20036 墳丘消滅 59
60	無名古墳	古墳	木原1733-7	古墳	県20038 墳丘消滅
61	無名古墳	古墳	木原1733-4他	古墳	県20039 墳丘消滅
62	おさんこうじ古墳	古墳	関原1233	古墳	県20064 墳丘消滅

No.	遺跡名	種別	所在地	時期	備考
63	企塚古墳	古墳	浅利2295	古墳	県20051 石室露呈している
64	下塚古墳	古墳	大島居4256	古墳	県20043 前方後円墳
65	二子塚古墳	古墳	大島居4229他	古墳	墳丘消滅
66	無名墳	古墳	大島居4218-1他	古墳	県20044 墳丘消滅
67	無名墳	古墳	大島居4183	古墳	県20045 墳丘消滅
68	無名墳	古墳	大島居4105	古墳	県20046 墳丘消滅
69	城原大塚古墳	古墳	大島居2896	古墳	県20048 墳丘消滅
70	無名墳	古墳	大島居2874	古墳	県20049 墳丘消滅
71	無名墳	古墳	大島居2878	古墳	県20050 墳丘消滅
72	無名墳	古墳	大島居3189	古墳	県20052 墳丘消滅
73	お御崎さん古墳	古墳	大島居3402	古墳	県20053 墳丘上に社殿あり

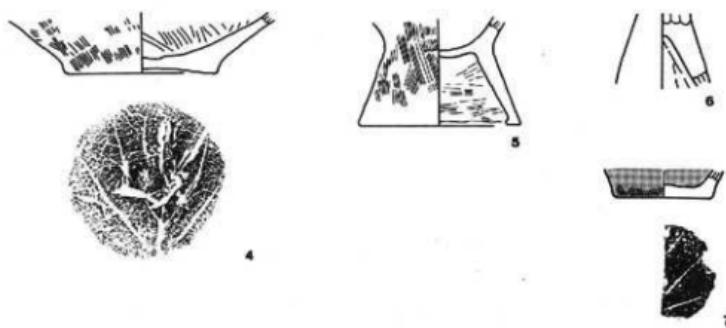
※備考欄の県番号は山梨県教育委員会 1979『山梨県遺跡地名表』に基づく。

第5章 表採遺物

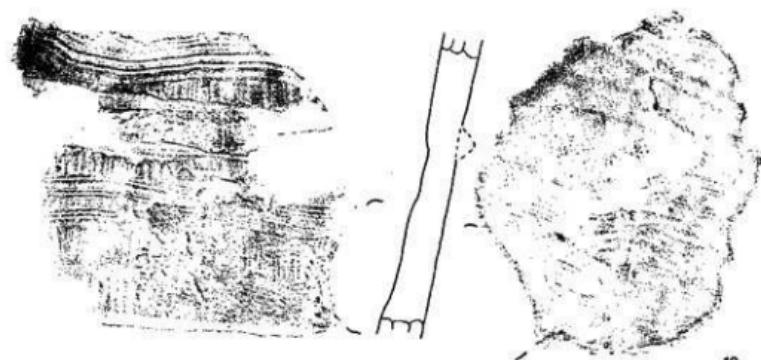
1～3は、縄文土器である。1は結節状沈線。2は幅広い隆線区画内に条線を入れる。3はへの字文。時期としては、1が前期後葉、2・3は、中期後半である。採集地は、1は前田遺跡、2は宇山遺跡、3は横畠遺跡である。

4～6は、古墳時代前期の土師器である。4は、壺底部で全周残る。底径は8.4cmを測る。内外面ともにハケメ調整である。色調は赤褐色、焼成は良好、胎土は雲母を含む。底面に木葉痕が見られる。5は、台付甕の脚部で全周残る。脚底径は8.8cmを測る。外面はタテ方向のハケメ調整、脚部内面はヨコ方向のハケメ調整である。色調は褐色。6は、高杯の脚部で全周残る。接合部径は2.8cmを測る。外面はナデ、内面はヘラナデである。採集地は、4は宮の下遺跡、5は門田遺跡、6は代中遺跡である。7は、恐らく古墳時代後期と思われるが、上師器のミニチュア壺底部である。内外面に赤彩しており、外面はハケメ調整である。底面に木葉痕が見られる。採集地は、上野原遺跡である。なお、5は、調査員が調査中に出会った人から、以前に烟を耕作中に出土したものとして譲り受けたものである。

8～11及び16～18は、古墳時代後期の須恵器である。8～11は、笠池西遺跡内の遺跡No67の無名墳付近、16～18は、上野原遺跡内の遺跡No56の無名墳付近で採集したものであり、これらの古墳に副葬されていた可能性がある。8は、高杯脚部で、残存率は1/2。調整はヨコナデで色調は灰色、焼成は良好、胎土は緻密である。9は、甕の口縁部である。外面に波状文を施しており、内面は自然釉がかかる。10は、甕脚部である。外面に平行タタキメを施し、内面はナ



第1圖 繩文土器・土師器・須恵器



12

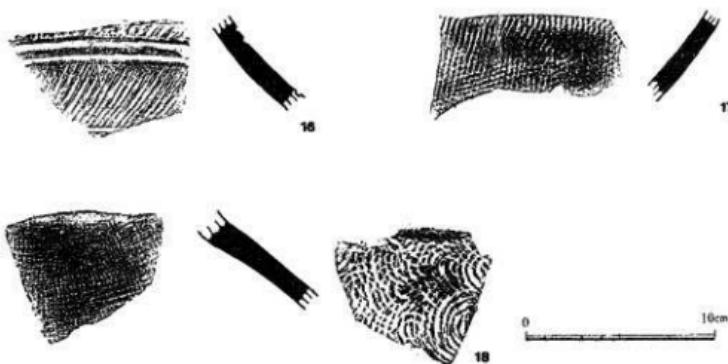
13

14

15

0 10cm

第2図 円筒埴輪



第3図



第4図 須恵器・土製品・銭貨

である。11は、壺胴部で、外面は平行タタキメ、内面は同心円状のタタキメで調整を行っている。16は、壺胴部である。外面は平行タタキメで、その中に沈線を引き、区画の役割を果たすものと見られる。17は、壺胴部である。外面は平行タタキメ、内面は自然釉が付着する。18は、壺胴部である。外面は格子状のタタキメで、内面は同心円状のタタキメで調整を行う。

12～15は、5世紀後半と思われる円筒埴輪である。12は、外面がタテハケのちヨコハケ（3本/cm）、内面がナナメ方向のハケメ調整を行っている。タガは剝離し、透かし孔は円形と思われる。13は、外面がB種ヨコハケ（5本/cm）、内面はナデである。タガの断面は三角形である。14は、底部で内外面ともにタテハケ（13本/cm）である。15は、口縁部で外面がナナメ方向のハケメ調整で、内面はヘラナデである。12～15は、熊野原遺跡内の畑で採集したものとして、その畑の地主が所有しているものを今回紹介することにした。当地は、北側に面した傾斜地であり、すぐ近くに三珠町人塚古墳があるが、この古墳から出土する円筒埴輪と胎土や調整方法が似ていることから、埴輪を焼いた窯跡の可能性がある。

19は、時期不明の馬形土製品の頭部である。色調は橙褐色、焼成は良好、胎土は密である。鼻の穴は棒状工具で刺突し、目の表現は、目の周りを若干削り、浮き彫りさせている。耳の表現は見られない。駒平遺跡で採集。

20は、「寛永通宝」である。いわゆるス宝錢の古寛永である。宮の脇遺跡で採集。

第6章 まとめ

今回の詳細分布調査の結果、73か所にのぼる遺跡を発見、確認し多くの成果を得ることができた。これまで54か所の遺跡・古墳が確認されていたが、今回の調査でその数が増え、新たに発見された遺跡が20か所ある。その内訳は、旧石器時代が2、縄文時代が35、弥生時代が14、古墳時代（古墳も含む）が49、奈良・平安時代が15、中世が21、近世が14であった。本村において、旧石器時代から近世に至るまで、人々が長い歴史の中で生活を営んできたことが明らかとなった。

豊富村は、遺跡の宝庫といわれているが、あらためて実証されたことになる。時代別で見た分布で特徴的なことは、縄文時代と古墳時代の遺跡（古墳も含む）が多いことが挙げられる。また、他町村域の曾根丘陵全体的に言えることだが、東八代郡東部や八ヶ岳南麓と比べ、意外に奈良・平安時代の遺跡が少ないことが指摘できる。本村は、平安時代において八代郡沼尾郷に比定されており、その中心的なムラとなる遺跡が見当たらない。今回、平安時代の土器を採集できたのは、大鳥居字山平遺跡と門田南遺跡だけである。

遺跡の立地分布を見ると、その大部分が曾根丘陵の台地上を占め、山地の林野内や丘陵下の笛吹川左岸の沖積地については、ほとんど確認できなかった。

今回は分布調査であるため、畑等は遺物の確認をしやすかったが、その他の裸地、林野（一部は調査実施）、宅地など調査が及ばず、笛吹川沿岸の沖積地では、後世の土砂が厚く堆積しているものと思われ、今回の調査で確認された以外にも遺跡が存在する可能性が高い。今後の調査でさらには新たな遺跡が発見されることもあるであろう。

ともあれ、今回の分布調査の成果が豊富村、さらには山梨県の考古学的調査・研究の基礎資料、さらに村内の埋蔵文化財保護、開発行為との調整などに役立てば幸いである。

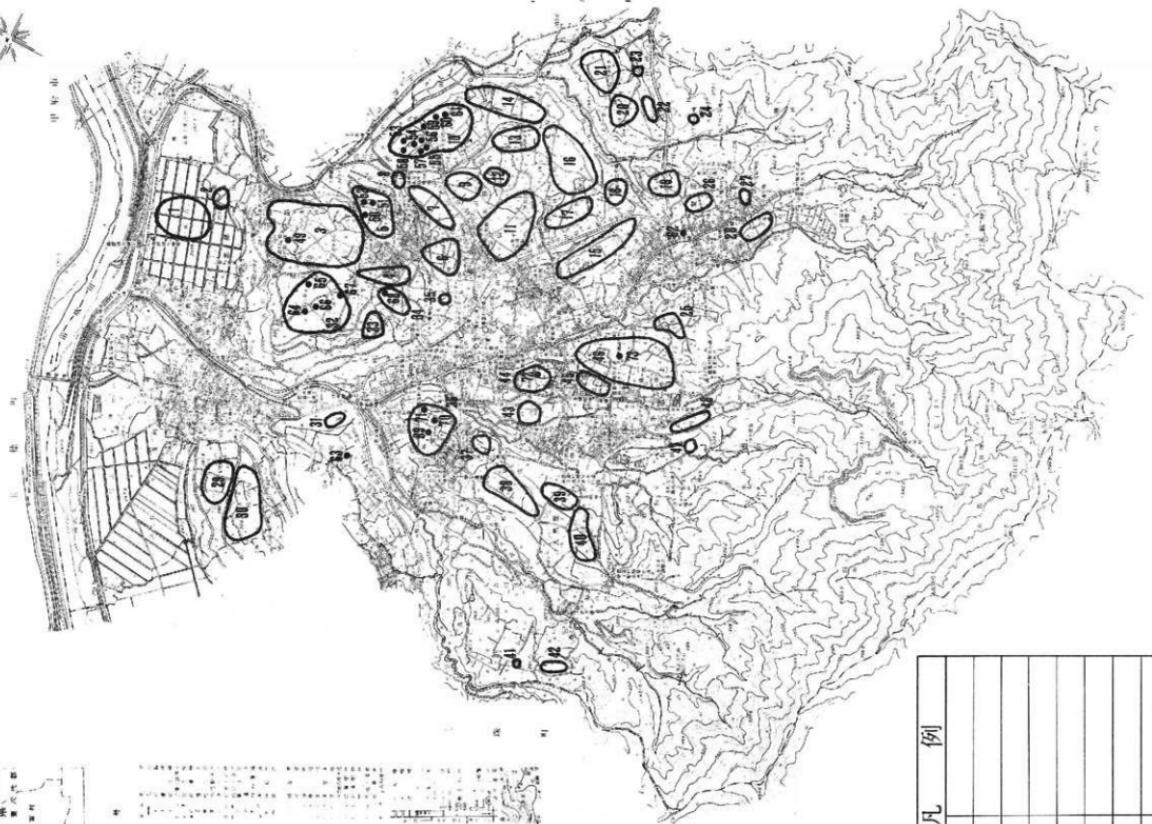
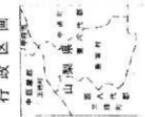
最後に今回の調査でご指導、ご協力をいただいた関係諸氏に心から感謝いたします。

参考文献

- 1 山梨教育会東八代支会 1914 『東八代郡誌』
- 2 仁科義男 1931 「大丸山古墳・大塚古墳」『史跡名勝天然紀念物調査報告』5 山梨県
- 3 仁科義男 1934 「東八代郡右左口村豊富村西八代郡大塚村古墳群の調査」『史跡名勝天然紀念物調査報告』8 山梨県
- 4 後藤守一 1937 『古墳発掘品調査報告』 帝室博物館
- 5 末永雅雄 1944 『日本上代の甲冑』
- 6 山本寿々雄 1960 「笛吹川、川床出土の土器（1）—特に甲府盆地周辺の弥生土器～土師器を考える上に—」『富士国立公園博物館研究報告』4
- 7 山本寿々雄 1960 「山梨県内古墳出土遺物集成（1）」『富士国立公園博物館研究報告』13

- 8 山本寿々雄 1965 「山梨県における考古学研究の動向(3) (古墳文化) 一文化財行政と併せてー」『富士国立公園博物館研究報告』13
- 9 野上丈助 1968 「古墳時代における甲冑の変遷とその技術史的意味」『考古学研究』14
—4
- 10 山本寿々雄 1969 「東八代郡豊富村浅利宮の下A地点1区出土の石器について(略報)」
『甲斐考古』6—2
- 11 佐藤八郎・佐藤森三校訂 1970 大日本地誌大系 45『甲斐国志』
- 12 森和敏他 1973 『金川曾根地区大規模農道建設及び畠地帯土地総合改良事業関係埋蔵文
化財緊急発掘調査概報』 山梨県教育委員会
- 13 豊富村 1974 『建村百年史』
- 14 野上丈助 1975 「甲冑製作技法と系譜をめぐる問題点(上)」『考古学研究』21—4
- 15 山梨県教育委員会 1977 『笛吹川沿岸土地改良事業地域内埋蔵文化財分布調査報告書』
- 16 小林秀夫 1978 「合掌形石室の諸問題」『中部高地の考古学』
- 17 山梨県教育委員会 1979 『山梨県遺跡地名表』
- 18 磐只正義他 1980 『日本城郭大系』8—長野・山梨—新人物往来社
- 19 橋本博文 1980 「甲斐の円筒埴輪」『丘陵』8
- 20 坂本英夫 1981 「山梨県における五世紀後半代の埴輪」『甲斐考古』18—2
- 21 橋本博文 1984 「甲府盆地の古墳時代における政治過程」『甲府盆地—その歴史と地域
性』 雄山閣
- 22 小林広和・里村晃一 1984 「山梨県」『古代学研究』105
- 23 森 和敏 1984 「山梨県の葺石古墳序論」『山梨の考古資料集』
- 24 長沢宏昌他 1986 『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』 山梨県教育委
員会
- 25 保坂康夫 1987 「横畠遺跡・赤二郎遺跡」 山梨県教育委員会
- 26 野上丈助編 1991 『論集武具』 学生社
- 27 渡辺昭雄 1993 『浅利与一公と浅利一族』 豊富村教育委員会
- 28 岡野秀典 1993 「豊富村出土の舟型埴輪」『山梨県考古学協会誌』6
- 29 岡野秀典 1993 「高部宇山平遺跡」 豊富村教育委員会
- 30 岡野秀典 1994 「豊富村の石造物」 豊富村教育委員会
- 31 高橋みゆき 1994 「山梨県東八代郡中道町金沢出土の土師器埴輪」『研究紀要』10 山梨
県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 32 山梨県立考古博物館 1994 『古墳時代の甲冑』第12回特別展図録
- 33 岡野秀典 1995 「高部宇山平遺跡II・浅利氏館跡・三枝氏館跡」 豊富村教育委員会
- 34 有泉秀夫 1996 「二枝氏の足跡を訪ねて」 豊富村教育委員会
- 35 岡野秀典 1997 「平成7・8年度村内遺跡発掘調査報告書」 豊富村教育委員会
- 36 岡野秀典 1997 「山梨県の初期須恵器」『山梨県考古学協会誌』8 (予定)

行政区域図



第5図 豊富村遺跡分布図



高部宇山平遺跡



中尾遺跡



代中東遺跡



柿戸原遺跡



宮の下遺跡



城原遺跡



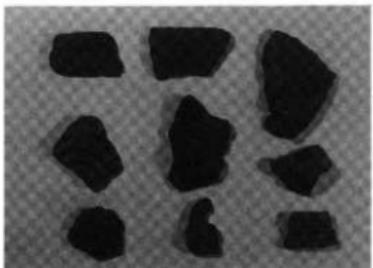
金塚古墳



王塚古墳



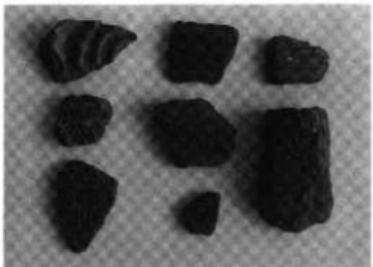
上野原遺跡表採遺物



東原遺跡表採遺物



安池東遺跡表採遺物



城原遺跡表採遺物

豊富村埋蔵文化財調査報告第4集

遺跡詳細分布調査報告書

印刷日 1997年3月31日

発行日 1997年3月31日

発行所 豊富村教育委員会

〒400-15 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3800

印刷所 (株)エンドレス

〒405 山梨県山梨市上石森123

